

# これからの時代に求められる資質・能力（社会で生きる力）の育成と 地域創生を担う人材の育成

北海道美瑛高等学校 学級数3 (校長 三上 英一)

## □ 実践の概要

本校は、地学協働を推進し、今年度から「MA+CH プロジェクト」、「ドローンを活用した教育活動」を実施しており、来年度からは本道初となる「二等無人航空機操縦士（国家資格）」が取得可能な科目を教育課程に位置付け、スクール・ミッションの実現に向けた教育活動を展開している。

### 1 実践の目的

生徒が将来、持続可能なまちづくりを推進できるようにするため、社会の変化に対応する資質・能力として、「行動する力」、「考える力」、「表現する力」、「自律する力」、「つながる力」、「挑戦する力」、「自立する力」を育成する。



【地域巡検】

### 2 実践内容

#### (1) 実施計画

地域と学校が連携・協働する事業「MA+CH プロジェクト」を活用し、これからの時代に必要な資質・能力を育成する探究活動のほか、美瑛町が掲げる「観光」、「農業」、「防災」に貢献するためにドローンを活用した学習活動を、「総合的な探究の時間」を軸に、授業や部活動等においても実施する。

#### (2) 取組の具体

- ・ 1年次・・・「総合的な探究の時間」において、地域人材を活用し、地域課題の発見・解決に向けた「地域巡検」や「農業体験」などを実施し、体験を踏まえて自分自身の探究テーマを模索する。設定した探究テーマとコンソーシアムメンバーの活動分野から、協働して探究することができるテーマのマッチングを行い、2年次に向けた探究テーマを設定。
- ・ 2年次・・・1年次の学びを生かし、地域課題の解決に向けて、コンソーシアムメンバーと連携・協力しながら、設定したテーマに基づく探究活動を進める。その後、地域住民やコンソーシアムメンバーなどを招いた発表会を実施。
- ・ 本校主催の「ドローンフェスティバル」や札幌で行われた「ドローンサミット」への参加を通して、ドローンの活用について学び、ドローン同好会の立ち上げを行った。さらに生徒が、町内でドローンを活用している企業を訪問し、更なる活用の方向性について協議。



【コンソーシアム会議】



【ドローンサミット】

#### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

「総合的な探究の時間」の取組の成果として、道教委主催の「探究チャレンジ・上川」に参加し、令和5年度には、「探究チャレンジ・ジャパン」（全道大会）への進出を果たした。「地域を学んだ成果から課題を設定し行動している点が素晴らしく感心した。」との評価をいただき、取組を通じて、生徒が自ら考え、行動する力の育成が図られた。

生徒たちの地域に対する関心が高まったほか、地域の魅力の再発見と課題意識の醸成により、地域住民からの学校への関心が高まり、地域とともにある高校としての学校に対する注目が高まっている。

#### (4) 改善後の取組

地学協働コーディネーター、地域コーディネーターが決まったため、今後さらに地域と連携・協働した取組の充実を目指す。加えて、SNSを活用するなど、情報発信の方法を工夫し、地域住民への幅広い発信を行う。

ドローン同好会が発足したため、今後、一層発展していくドローン産業を見据え、地域と連携し、生徒たちの自発的な行動や主体的な活動を充実させていく。

### 3 実践のポイント

- ・ 地域住民の本校への理解が深まり、学校と地域が一体となった教育活動を実施できたこと。
- ・ 地学協働コーディネーター、地域コーディネーター及びコンソーシアムの協力を得たことにより、教員側は、「総合的な探究の時間」等の教育活動の指導に専念できたこと。
- ・ ドローンの活用により、地域の方と関わる機会が増加したことで、生徒たちの主体性が高まったこと。